

平成 18 年 1 月 31 日

各 位

会 社 名 全 日 本 空 輸 株 式 会 社
代 表 者 名 代表取締役社長 山元 峯生
(コード番号 9202 東証・大証各第 1 部)
問 合 せ 先 総 務 部 長 久 松 完
(TEL . 03 - 6735 - 1001)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績等の動向を踏まえて、平成 17 年 4 月 28 日の平成 17 年 3 月期決算発表時に公表した平成 18 年 3 月期の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1 . 業績予想の修正

平成 18 年 3 月期 連結業績予想 (平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)
(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,326,000	74,000	44,500	10,000
今回修正予想 (B)	1,350,000	78,500	56,000	17,000
増減額 (B - A)	24,000	4,500	11,500	7,000
増減率 (%)	1.8	6.1	25.8	70.0
前期 (平成 17 年 3 月期) 実績	1,292,813	77,774	65,224	26,970

平成 18 年 3 月期 個別業績予想 (平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)
(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,139,000	62,000	35,500	8,500
今回修正予想 (B)	1,160,000	62,000	42,500	20,000
増減額 (B - A)	21,000	0	7,000	11,500
増減率 (%)	1.8	0	19.7	135.3
前期 (平成 17 年 3 月期) 実績	1,100,448	64,308	52,417	10,401

2 . 修正の理由

国内線旅客事業については、堅調なビジネス需要や愛知万博の開催等による旅行需要の増加等により、国内線旅客収入は当初予想を上回る見込みです。

国際線旅客事業については、反日デモの影響により中国路線の旅行需要が低迷する一方、北米線や欧州線を中心にビジネス需要が旺盛であること等から、国際線旅客収入は当初予想を上回る見込みです。

以上の動向から、航空運送事業および旅行事業を中心に当初予想を上回る売上高を確保できる見通しです。

燃油については、ドバイ原油の市場価格を当初 1 バレル 39 ドルと想定していましたが、現時点においては 60 ドル近辺で推移していることから燃油費の負担は期初の予想以上に収益を圧迫する要因となっていますが、間接コスト等の削減を着実に推進することにより、当期全体では営業費用の増加を最小限に留められる見通しです。

また、為替差損益の改善等により、営業外損益も良化する見通しです。

以上の様な状況から、連結および個別の通期業績予想を修正いたしました。

(注) 上記の予想は本資料発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上